

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 3学年	現代文	2	「現代文B」(第一学習社)	黒澤、深井

(学習目標)

- ・様々な文学作品に触れることで国語に親しみ文章を主体的に読む力を養う
- ・副教材を利用し、語彙力の向上を図る。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①ワスレナグサ ②食と想像力	12 時間	①②共通 語句・漢字の理解と習熟 論理的な文章に親しむ
	5	・中間考査		
	6	③記憶のゆがみ ④物語を発現する力 ・期末考査	10 時間	③ 語句・漢字の理解と習熟 小説を読解鑑賞する力を身につける
2 学 期	8	①鏡としての他者 ②山椒魚	12 時間	①②語句・漢字の理解と習熟 論理的な文章に親しむ
	9	・中間考査		
	10	①山月記	18 時間	① 語句・漢字の理解と習熟 小説の細部にまで気を配り注意深く読む ② 語句・漢字の理解と習熟 論理的な文章に親しむ
	11	②僕らの時代のメディアリテ ラシー ・期末考査		
12				
3 学 期	1	①経験の教えについて	18 時間	① 語句・漢字の理解と習熟
	2	・期末考査	年間 合計 70 時間	
	3			

(評価方法)

- ・実力考査・定期考査の点数に漢字テスト等の点数を加算した点数を基準とし、学習意欲・提出物等を参考に
する。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科Ⅱ類 音楽科3学年	古典B	2	古典B（第一学習社）	黒澤、青木、上條

（学習目標）

・すでに学んできた古文の知識を生かしながら学習を深めることで、文学的感動を味わい、人間の生き方、考え方の考察を通じ、古典への興味と関心を一層広げ、深める。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①枕草子 中納言参り給ひて 雪のいと高う降りたるを	10 時間	①重要語句の理解と習得。 助動詞に従って口語訳ができる。 当時の人の感性や、風景の表現などの文化に触れ味わうことができたか。 ②漢文訓読の復習。
	5	②論語 己矣乎・不敬何以別乎		
	6	・中間考査		
	7	①大和物語 姨捨 ②老子 柔弱 ・期末考査	16 時間	①重要語句の理解と習得。 助動詞に従って口語訳ができる。 人間関係を整理し、文章の展開と内容が理解できたか。 ②③ 漢文句形の習得
2 学 期	8	①大鏡 弓争ひ・三舟の才	16 時間	①重要語句の理解と習得。 助動詞に従って口語訳ができる。 登場人物の心情が理解できたか。 ②③漢文訓読の習熟。 句法・重要語句の習得。 文章の展開と内容が理解できたか。
	9	②四面楚歌		
	10	中間考査		
	11	①源氏物語 光る君の誕生 ②三国志 水魚之交・赤壁之戦 ・期末考査	16 時間	①重要語句の理解と習得。 助動詞に従って口語訳ができる。 登場人物の心情が理解できたか。 ②句法・重要語句の習得。 文章の展開と内容が理解できたか。
12				
3 学 期	1	①無明草子 ・期末考査	12 時間	①筆者の論点を正確に理解することができたか。
	2		年間 合計	
	3		70 時間	

（評価方法）

- ・定期考査の点数を基準とし、学習意欲・小テスト・提出物を参考にする。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合、評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

（備考・注意事項）

- ・辞書・文法書を積極的に活用すること。

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科・3学年	地理歴史・日本史A	3	新日本史A（実教出版） 最新日本史図表（第一学習社） 新日本史A演習ノート（実教出版）	山浦

（学習目標）

- ◇近現代を中心に学習することによって、日本史の理解を深める。
- ◇日本史をより深く考察することにより、歴史的な見方や考え方を身につける。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	① 世界と東アジア ② 近代国家の誕生 ③ 近代社会の形成 ・中間考査	18時間	アヘン戦争から開国、明治の諸改革、大日本帝国憲法が制定されるまでを概観する。
	5			
	6	④ 日清戦争と日露戦争 ⑤ 帝国形成期の社会 ・期末考査	15時間	日清戦争と日露戦争の原因と社会変容を理解する。
	7			
2 学 期	8	⑥ 大正デモクラシー ⑦ ヴェルサイユ体制とロシア革命 ⑧ 都市化と市民文化 ⑨ 東アジアの情勢と恐慌 ⑩ 日中15年戦争 ・中間考査	21時間	大正デモクラシーと当時の社会のようすを学習するとともに、昭和恐慌から日中戦争までを概観する。
	9			
	10	⑪ アジア太平洋戦争 ⑫ 戦後の世界と日本 ⑬ 冷戦と日米安保体制 ・期末考査	24時間	戦争までの過程と当時の人々の生活の様子を学習する。 敗戦後の政治体制の確立について理解する。
	11			
	12			
3 学 期	1	⑭ 高度経済成長下の日本 ⑮ 経済大国 ⑯ 転換した世界のしくみ ⑰ 現代日本の課題 ・期末考査	27時間 年間合計 105時間	敗戦から高度経済成長をへて経済大国になるまでを学習する。 現代日本の課題について考察する。

（評価方法）

定期考査を基本とし、授業態度・提出物・出席状況も加味する。

（備考・注意事項）

- ◇史料、地図、ビデオ教材などを活用し、歴史のイメージを豊かにしたい。特に人々の生活様子に留意する。
- ◇身近な地域の教材を活用して理解を深めたい。

学校番号	課程
37	全日制

R4 シラバス (年間指導計画)

(別記様式2)

小諸	高等学校	全日制	課程	音楽科	学科	全校生徒数	479 (413)	人	学級数	3 (15)	学級	保健体育科職員	5	人
----	------	-----	----	-----	----	-------	-----------	---	-----	--------	----	---------	---	---

◎学校教育目標

(民主的な社会の進展に貢献できる全人的な人間の育成を目指す。)
 社会的関係の中で自己実現を果たしていくために、それぞれの場面で自ら目的を設定し、その実現のために積極的に行動していく主体性を持った生徒の育成を図る。
 ①自分から目的を設定し、積極的に行動していく「主体性」
 ②社会の一員としての自覚と他者の立場を尊重しよりよい人間関係を形成する「社会力」

◎保健体育科目標

・自主自律の精神の育成 (ルールの遵守・他者への気づき・授業への取り組み)
 ・体力の向上 (日常生活・社会生活を送る上での基礎体力の向上・健康の保持増進)
 ・運動の楽しさに触れる (生涯スポーツ・趣味等の観点)

科目	学年	単位数	1学期																																			2学期																																			3学期																																		
			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月																																																																							
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35																																																																						
体	1年次	3	男子	A体づくり+身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 フุตบอล)			ク ラ ス マ ッ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																		
		女子	A体づくり+身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 レーボール)			ク ラ ス マ ッ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																			
	時間	70	2			10			10			10			3			10			10			10			6			9																																																																													
	2年次	2	男子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 フุตบอล)			ク ラ ス マ ッ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																		
		女子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 レーボール)			ク ラ ス マ ッ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																			
	時間	70	12			10			10			10			3			10			10			10			6			9																																																																													
育	3年次	3	男子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)			選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論 フミントン)			ク ラ ス マ ッ チ			選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																																																																																					
		女子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)			選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論 フミントン)			ク ラ ス マ ッ チ			選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																																																																																						
	時間	105	18			16			12			3			6			15			15			20																																																																																			
	保	1年次	1単位	オリエンテーション	筋肉系骨格系			「現代社会と健康」 1 健康の考え方と成り立ち~ 5 がんの治療と回復			期 末 テ ス ト			「現代社会と健康」 6 運動と健康~ 1 9 健康に関する環境づくり			期 末 テ ス ト			「安全な社会生活」 1 事故の現状と発生原因~ 6 心肺蘇生法			期 末 テ ス ト																																																																																				
2年次		1単位	「現代社会と健康」 19安全な交通社会つくりとその基本~ 日常的な応急手当			期 末 テ ス ト			「生涯を通じる健康」 6 加齢と健康~ 1 1 ささまざまな保健活動 や対策			期 末 テ ス ト			「社会生活と健康」 1 大気汚染と健康~ 9 健康的な職業生活			レポ ー ト 学 習 ガ イ ダ ン ス			レポ ー ト 学 習 ・ 製 本 ・ 発 表 ・ ま と め 期 末 テ ス ト																																																																																						
体育的な学校行事等を記入)		(期日)	7/2 (土) 体育祭 9/7 (水) ~ 9/8 (木) クラスマッチ (球技)																																																																																																								

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科理系、 音楽科・ 3学年	コミュニケーション英語Ⅲ	3	MY WAY English Communication Ⅲ (三省堂)	青木、木村

(学習目標)

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①Reading Skill 1 ②Reading Skill 2 ③Reading Skill 3 ④Reading Skill 5, 6	6 X 3 時間	①～④に共通して、 1. 英文の多様な分野の話題を察知して文全体の話題を掴むことができる。 2. Slash Readingの考え方をマスターし左から右へ英語の論理で意味を捉え、英文読解の考え方を意識して英文を読むことができる。 3. 既習の文法事項に気づきながら英文を読み進めることができる。 4. 新出単語・新出表現を学び、それらを使って書いたり、話したりすることができる。
	5	・中間考査		
2 学 期	6			
	7	⑤Lesson 1 ⑥Lesson 2 ⑦Lesson 4 ・期末考査	5 X 3 時間	⑤～⑦に共通して、 上記1.～4. を踏まえ、 5. 文意や作者の意図を捉え、文章全体の論理の流れを掴むことができる。
	8	⑧Lesson 5 ⑨Lesson 6 ⑩Lesson 7 ・中間考査	7 X 3 時間	⑧～⑩に共通して、 上記、1.～5. の到達事項をより短時間で達成すると同時に、 6. 内容に対する質問に対して論拠となる文を的確に見つける練習を繰り返し、より正確に英文を読むことができる。 7. 内容に関する英語の質問に英語で答えることができる。
	9			
10	⑪Lesson 8 ⑫Lesson 9 ⑬Lesson 10 ・期末考査	8 X 3 時間	⑪～⑬に共通して、 1.～7. の到達事項を達成すると同時に、 8. 長い英文の論旨を捉え、より速く読むことができる。 9. 英文についての要約を英語で書くことができる。	
11				
12				
3 学 期	1	⑭Lesson 12 ⑮Lesson 13 ⑯Lesson 14 ・期末考査	9 X 3 時間	⑭～⑯に共通して、 1.～9. の到達事項を達成した上で、 10. 英語で書かれた長い文章を分析的に読むことができ、より高度な英文を正確に理解することができる。 11. 目標時間内に英文の内容を正確に捉え、必要な情報を抜き出すことができる。
	2			
	3		年間 合計 35 X 3 時間	

(評価方法)

・学習目標が十分達成できたか、定期考査点・小テスト・授業態度・提出物・欠課時数などを総合して評価する。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 ・3学年	英語表現Ⅱ	2	Vivid English ExpressionsⅡ (第一学習社)	池ノ上、 木村、山浦

(学習目標)

英文法を学び、書く、話す、聞く、読むと行った様々な活動を通してそれを身につけ、自分の考えを習得した英文法を使用して表すことができる。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①Lesson 26 ②Lesson 27 ③Lesson 28	6 X 2 時間	①～③ 会話の中でよく使用される表現について、音読や暗誦をし、用法を理解した上で会話や作文の中で実際に使うことができる。
	5	・中間考査		
	6	④Lesson 29 ⑤Lesson 30 ⑥Lesson 31 ⑦Lesson 32	5 X 2 時間	④ 許可や命令で使われる表現の用法を理解し、学習した表現を会話や作文の中で使うことができる。 ⑤比較的長い文章で使用される表現について、表現の意味を理解し、実際の文の中で英文を組み立てて使用することができる。 ⑥未来を表す表現について復習し、使いこなせる。 ⑦推量や仮定の表現を復習し、基本的な文法問題が解ける。 Ifやseemを使った様々な表現を学び、会話や英作文の中で使うことができる。
	7	・期末考査		
2 学 期	8	⑧Lesson 33 ⑨Lesson 34 ⑩Lesson 35	7 X 2 時間	⑧～⑫ 実際に英作文をしたり比較的長い文章を読んでいったりする中で、文の組み立て方や段落の構成の仕方を理解する。
	9	⑪Lesson 36 ⑫Lesson 37 ・中間考査		
	10	⑬Lesson 38 ⑭Lesson 39 ⑮Lesson 40	8 X 2 時間	⑬～⑮ スピーチ・ディベート・ディスカッションに必要な技能を学び、構成を工夫しながら聞き手に自身の考えを簡単な英語で伝えることができる。 ⑯ 今までに習った文法事項を復習し、音読や暗唱を通して文中での使い方を理解し、問題演習の中で活用することができる。
	11	⑯文法の整理 1～10 ・期末考査		
12				
3 学 期	1	⑰文法の整理 11～20 ・期末考査	9 X 2 時間	⑰教科書で習得した文法表現を使用して問題演習を行ったり、英作文等を通して自身で活用したりできる。
2		年間 合計		
3		35 X 2 時間		

(評価方法)

学習目標が十分達成できたか、定期考査点・小テスト・授業態度・提出物・欠課時数等を総合して評価する。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科:3学年	社会と情報	2	日本文教出版『新・見てわかる社会と情報』 (社情317)	中島進之介

(学習目標)

- (1) 情報機器を適切に活用し、情報を収集、分析しながら問題を解決する力を身につける。
(2) 情報機器を活用したコミュニケーションや情報発信において、他者への配慮や責任をもつ態度を育てる。
(3) 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
(4) コンピュータや情報通信ネットワークのしくみを理解し、情報社会を支えるシステムに関心をもつ。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	第1章 第1節 情報を活用しよう 第2節 情報モラルを身につけよう	12時間	情報社会に関心を持ち、自らの情報活用能力を高めようとする態度を養う 情報を発信するときに必要な送り手としての責任を理解する 情報機器の特徴とはたらきについて理解する
	5	第2章 第1節 コンピュータを使ってみよう 第2節 文書を作成してみよう		
	6	第3章 第1節 問題解決を試してみよう 第2節 データを分析してみよう 期末考査	10時間	問題の本質は何であるかを知り、問題を解決する手順と方法を理解する 表計算ソフトウェアを活用した情報の分析の方法を習得する
2 学 期	9	第3節 情報をわかりやすく伝えよう	14時間	プレゼンテーションソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する 効果的に情報を伝えるために発信の手順や方法を学ぶ
	10	第4章 第1節 情報化が社会に及ぼす影響と課題 第2節 情報セキュリティの確保	16時間	情報化が社会に及ぼす影響と課題を理解する 望ましい情報社会のあり方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解する 情報セキュリティを高めるためのさまざまな方法を理解する
	11	第3節 情報社会における法と個人の責任		
	12	第5章 第1節 情報通信ネットワークとコミュニケーション 期末考査		
3 学 期	1	第2節 情報のデジタル化 第3節 情報通信ネットワークのしくみ 第4節 望ましい情報社会を築く	18時間 年間合計 70時間	情報のデジタル化の基礎的な知識を理解する 情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解する 情報システムに関する意見を提案・集約し、情報社会の一員としての意識を高める

(評価方法)

定期考査の点数を基準とし、提出物・出欠状況を総合して評価する。

(備考・注意事項)

特になし

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科 3年		音楽理論	2	和声・理論と実習 楽典・理論と実習	依田潤子
(学習目標) ・和声の配置・連結が正しく行える。また、古典的な和音進行の基礎（長調、短調に基づくカデンツ）を学ぶことにより、演奏におけるより深い表現能力の取得を目指す。（和声） ・楽典の復習を行い、全範囲において総合的な理解を深める。（理論）					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	<和声> ①予備知識	12時間	①三和音および構成音の復習。また基本形、1転、2転の記号を理解する。（和音が読め、記号で書くことができる）	
	5	②基本位置三和音の配置、連結。 <理論> ①音程、音階の復習		②密集、開離配分の意味を理解し、正しく配置することができる。種々の禁則（連続、並達等）を理解し与えられたバス及び和音記号をもとに正しく連結することができる。同時にⅡ→Ⅴ、Ⅴ→Ⅵが正しく活用できる。（和声）	
	6	・中間考査	10時間	① 総合的な応用問題を解くことができる。（理論）	
	7	<和声> ③和音設定の原理 ・期末考査 <理論> ②調性の復習		③カデンツと終止形を理解する。また、和音進行の可能性を理解し、自分で和音設定ができる。以上、1学期はハ長調のみにて行う。（和声） ②総合的な応用問題を解くことができる。（理論）	
2 学 期	8	<和声> ①各種の調	14時間	①全ての長調にてハ長調と同様にバス課題を行うことができる。また短調においては「和声短音階」を使用し、増進行に注意して配置・連結することができる。（和声）	
	9	<理論> ①和音、コードネームの復習 ・中間考査		①総合的な応用問題を解くことができる。（理論）	
	10	<和声> ②第1転回位置	16時間	②第1転回形の配分（密集、開離、オクターヴ）について理解し、正しく配置できる。また第1転回形を含んだバス課題ができる。（和声）	
	11	<理論> ②移調、調性判定の復習 ・期末考査		②総合的な応用問題を解くことができる。（理論）	
12					
3 学 期	1	<和声> ①第2転回位置	18時間	① 第2転回形及び属七の配分（密集、開離）について理解し、正しく配置できる。またバス課題ができる。（和声）	
	2	<理論> ①全範囲及び音楽知識に関する演習 ・期末考査		①これまでの範囲に加え、音楽史や一般知識に関する問題を繰り返し解くことによって理解を深める。（理論）	
	3				
(評価方法) ・各定期考査、長期休業課題及び出欠状況によって評価する。					
(備考・注意事項) ・授業は主に実習・演習を中心とし、課題を繰り返し行うことによって理解を深める。また必要に応じて補習を行い個人レベルにおける到達度を高める。					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科3年		ソルフェージュ	4	全訳コールユーブンゲン	青木千佳・井出玲子 滝沢裕基・依田潤子
(学習目標)					
音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を養う					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①視唱 ②聴音 ・期末考査	11 X 4時間	①②和声分析を含めた視唱・聴音ができる	
	5				
	6				
	7				
2 学 期	8	①演習 ・期末考査	15 X 4時間	①大学入試問題に対応したソルフェージュ課題の聴音・視唱・視奏ができる	
	9				
	10				
	11				
	12				
3 学 期	1	・期末考査	年間 合計 35 X 4時間		
	2				
	3				
(評価方法)					
・各時間の課題、学期毎のテスト、出欠状況によって評価する					
(備考・注意事項)					
.					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科・3学年		音楽史	1	音楽史を学ぶ 久保田慶一 著編	井出玲子
(学習目標)					
(1) 我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解することができるようにする。					
(2) 多様な音楽の文化的価値について考えることができるようにする。					
(3) 音楽に関する伝統と文化を尊重する態度を養う。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①ロマン主義音楽について	2時間	◎音楽史時代区分についての知識を身に付ける。(知識・理解) ◎音楽文化を尊重し主体的に学習に取り組もうとする。(関心・意欲・態度) ◎楽曲の文化的・歴史的背景や作曲者による表現の特徴を理解し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。(鑑賞の能力)	
		②ベートーヴェン 〔ロマン派の音楽〕	2時間		
		③シューベルト	2時間		
		④メンデルスゾーン	2時間		
		⑤ベルリオーズ	1時間		
		⑥シューマン	1時間		
	6	期末考査 ①～⑥についての筆記テスト	1学期合計 11時間		
2 学 期	8	⑦ショパン	1時間	◎それぞれの特徴などに関心をもち、音楽史の学習に主体的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度) ◎音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ音楽の文化的価値などについて考えたり、各時代の音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりする。(鑑賞の能力)	
		⑧リスト	2時間		
		⑨ワーグナー	1時間		
		⑩ブラームス	2時間		
		⑪イタリアオペラ	2時間		
		⑫ロシア5人組 (ムソルグスキー 他)	2時間		
		⑬チャイコフスキー	1時間		
		⑭ドボルザーク	1時間		
		⑮マーラー	2時間		
		⑯グリーク、シベリウス	1時間		
	11	期末考査 ⑦～⑯についての筆記テスト	2学期合計 16時間		
3 学 期	1	⑰リヒャルト・シュトラウス	1時間	◎文化的・歴史的背景などを理解して鑑賞したり、多様な音楽の文化的価値について考えるなど、主体的に学習に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度) ◎音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら価値判断し、近現代の音楽のよさや美しさを味わって鑑賞する。(鑑賞の能力)	
		⑱サンサーンス	1時間		
		⑲フランク、フォーレ 〔近・現代の音楽〕	1時間		
		⑳ドビュッシー	1時間		
		㉑ラベル	1時間		
		㉒ラフマニノフ	1時間		
3	㉓ストラビンスキー	1時間	年間合計 35時間		
(評価方法)					
筆記テスト／授業の取り組み(観察)／課題提出／出席					
(備考・注意事項)					
・1単位の授業であるため、欠課時間に充分注意して下さい。欠席した授業については自分でプリントの穴埋めなどで学習を進め、不明な点があれば質問をして下さい。					
・プリント資料を多く配布します。整理保存を丁寧に行ってください。(学期ごと提出)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科3年		演奏研究	1		滝沢裕基
(学習目標) 音楽に関する知識、技能に基づき、創造的な表現方法を習得する。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①「わたしのおいたち」 (レポート課題)	13X 1時間	① 自分自身の今までについてまとめることができる。	
	5	②楽曲研究 (レポート課題)		② 楽曲のもつ歴史的背景や特性を理解することができる。	
	6	③楽器紹介発表 (レポート課題)		③ 聴き手を意識した専攻楽器の紹介ができる。 ・楽器の歴史や楽曲を通して魅力を伝えることができる	
	7				
2 学 期	8	①ステージマナー講習 (レポート課題)	16X 1時間	①正しいマナー・美しいマナーを理解し、身につけることができる。	
	9	②調律講習 (レポート課題)		②楽器の構造、調律の仕方などを理解することができる。	
	10	③楽曲研究 * 楽曲研究レポート * 卒業演奏会プログラム用 曲目解説		③楽曲のもつ歴史的背景や特性を理解することができる。	
	11			楽曲について理解し、自分なりの言葉でわかりやすくまとめることができる。	
	12			①器楽課題 (邦楽含む)	
3 学 期	1	②スコアリーディング 指揮法演習	6X	① ②共通 ・楽器のもつ歴史や特性を理解することができる。 ・スコア(総譜)からの確に音楽的な情報を読み取ることができる。 ・基本的な奏法や指揮法を習得し、表現することができる。	
	2		1時間		
	3		年間 合計 35時間		
(評価方法) ・日頃の授業に対する取り組み(出欠席・授業態度等)と課題レポートにより評価する。					
(備考・注意事項)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		合唱・合奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
(学習目標) 専門的な知識や技能を総合的に働かせ、表現内容を解釈したり音楽の文化的価値について考え、表現意図を明確に持つ。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品 ・実技テスト	11時間	正しい音程で、バランスを考えながら演奏する。(技能)	
	5			様々な演奏家による演奏を聴き、理由を述べて評価する。 (知識・理解)	
	6			楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。(関心・意欲・態度)	
	7				
2 学 期	8	現代邦人作曲家作品(合唱) 組曲または交響曲(合奏) ・実技テスト	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。(技能)	
	9			旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取りながら、互いの旋律が生きるように演奏を工夫する。(思考・判断・表現)	
	10			パート練習において、自ら課題を発見し、協働して練習方法を工夫しながら合唱・合奏に生かす。 (関心・意欲・態度)	
	11				
	12				
3 学 期	1	ルネサンス作品(合唱) バロック・古典派の作品 (合奏) ・実技テスト	9時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。 (知識・理解)	
	2		年間 合計 35時間	旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法を考え、意図をもって演奏する。(思考・判断・表現)	
	3				
(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。					
(備考・注意事項)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		重唱・重奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
<p>(学習目標) 専門的で幅広く多様な楽曲について理解を深め、感性を磨き、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。</p>					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品 ・実技テスト	11時間	異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏する。(技能)	
	5			曲想を音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(知識・理解)	
	6				
	7			楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。(関心・意欲・態度)	
2 学 期	8	現代邦人作品(重唱) ロマン派作品(重奏) ・実技テスト	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。(技能)	
	9			お互いの演奏を聴きながら、曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、曲のよさや美しさを味わう。(思考・判断・表現)	
	10			曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)	
	11				
	12				
3 学 期	1	ルネサンス作品(重唱) バロック・古典派の作品 (重奏) ・実技テスト	9時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。(知識・理解)	
	2		年間 合計 35時間	旋律の重なりや掛け合いを聴き取り、それらの働きが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだす。(思考・判断・表現)	
	3				
<p>(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。</p>					
<p>(備考・注意事項)</p>					